



## ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド 新生イカロスが 熱田の地に舞い降りました



### 息子・イカロスに託した 父・ダイダロスの夢ロマン

2つ以上のことを合わせて用いることをハイブリッドと呼びます。たとえば、環境にやさしいクルマ・プリウスは、モーターとエンジンのハイブリッド自動車です。

私たちが普段の生活において、インターネットを活用しながら新聞を読んだりして、「デジタルとアナログのハイブリッド」の中で暮らしています。

今回この場で試みたいのが、ギリシャ神話と日本の神話や伝説とのハイブリッドです。たとえば……ギリシャ神話のイカロスは、いつまでも夢を見ている少年。

その父親・ダイダロスは、天才的な発明家で技術屋です。ダイダロスは彼の才能と技術から人に尊敬だけでなく、嫉妬や羨望の眼差しでも見られていました。そして、その嫉妬は国王からも発せられることになってしまうのです。

ある日、ダイダロスがミノス国王を侮辱したとして、ダイダロスとともにイカロスまでもクレタ島にある迷宮の中に閉じ込められてしまいました。実はこの迷宮はダイダロス自身がつくったものなので、時間をかければ必ず抜け出せるはずでした。

しかし、迷宮から抜け出したとしても、島国であるクレタ島から抜け出すには、海を越えなくてはなりません。そこで、ダイダロスは息子・イカロスに自由を与えるため、空を飛ぶための翼を授けました。さすがは発明王。なんと、イカロスの両腕に鳥の羽根をロウではりつけて翼をつくったのです。

ダイダロスは「いいか、イカロス。この翼で空を飛んで脱出しろ。ただし、この翼は鳥の羽根でできている。しかも、両腕とのつなぎ目をロウで固めてつくってある。低く飛べば海のしぶきで翼が重くなってしまい、高く飛びすぎると太陽の熱でロウが溶けてしまう。気をつけて行け」と送り出しました。父が息子に託した夢とロマンの証です。



### 太陽光線にも決してくじけない 強かなるイカロスの翼で雄飛

しかし、空を飛ぶ、えもいわれぬ快感に父親のアドバイスを忘れ、高く舞い上がり太陽に向かって飛んでしまうイカロス。渾身の飛翔は、悲劇のフライトへ……。翼を固めてあったロウが溶け、あえなくエーゲ海に落ちてしまいました。

こうして、ギリシャ神話では、イカロス少年の夢は潰れてしまいました。翼を得たイカロスの飛翔。鳥になった彼の勇気とロマンには拍手を送りたいところです。



▼熱田神宮周辺にはさまざまな伝説が残されています。



しかし、彼には足りないものがあつたのです。それは、決して自分の力におごることなく、人の気持ちにも応えることのできる「謙虚と感謝」の気持ち。イカロスの夢よ、もう一度。イカロスが、イカロスであるために……。そして、あの伝説の神話を越えるために……。今こそ渾身をふりしほり飛翔する時。

「SHINWA WALK～伝説そぞろ歩き」は、そんなギリシャ神話きってのロマンチストであるイカロスが伝説の世界からよみがえり、ここ熱田の地に舞い降りそぞろ歩きするロマン紀行です。

「ギリシャ神話と日本神話のハイブリッド」という手法で、新生イカロスが郷土の「神話、伝説、民話の世界」の足跡をたどります。

太陽光線にも決してくじけない強かなる翼を得たイカロスが、ご当地を縦横無尽に飛び回ります。

資料を元に、史実にはできるだけ忠実でありながらも、随所に独自の解釈も加えていきます。生まれ変わったイカロスの目線から見た「新しい伝説の世界」をお楽しみいただければ、幸いです。



新シリーズ、いよいよスタート。次回は、熱田神宮に伝わる華麗なる「熱田大神捧貴妃伝説」をお送りします。お楽しみに。

■写真/Kiyoshi K ■イラスト/Rei ■取材・文/Icarus